

自己評価表

愛媛県立三崎高等学校
学校番号(38)

教育方針	生徒一人一人の個性を尊重し、ゆとりある伸び伸びとした学習活動を推進することにより、たくましく生きる力を育成する。	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 進路決定100%に向け、一人一人に応じた指導を徹底する。 2 部活動と学校行事を充実させ、豊かな人間性を育てる。 3 地域に根ざした学校づくりとボランティア活動を積極的に推進する。 4 基本的な生活習慣を確立し、高い規範意識を育てる。 5 人権意識を高め、いじめや差別のない社会の実現を目指す。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	重点目標達成のための実践	本校の重点目標を理解し、その実現に向けて創意工夫をしながら実践に励む。	A	これまでの取組を引き継ぎ、更なる学校の魅力化に積極的に取り組んだ。昨年開始した全国募集であるが、今年度は東京、名古屋、大阪の「地域みらい留学」に参加するなどして、全国的に本校の魅力を発信することにつながった。個を大切に、生徒一人一人を育てるこれまでの取組が高評価につながっており、自然豊かな環境とともに全国からの志願者増につながってきている。	引き続き全国的な発信を続けるとともに、全国各地から入学してきた生徒から高い評価を得ることができるよう、受け入れ体制をより充実させていくことが必要である。また、全国募集以上に地元の中学生に本校の魅力を伝えていく難しさもあり、バランスを考えながら幅広い魅力づくりに取り組まなければならない。
	地域と連携した教育活動の充実	地域と連携した教育活動を行う。	A	これまでの「三崎おこし」の取組の成果もあり、今年度から文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」研究指定校に選ばれた。結果として分枝化猶予にもつながったが、新しいカリキュラムの構築を目指して、発展的な活動に取り組んでいる。	新しい学校設定科目を導入する予定である。試行錯誤しながらも、地域の発展、活性化を目指して前進あるのみと考える。多くの地域の皆様や校外の有識者の方々の更なる連携が不可欠であり、多くの方に支えられる取組を実践したい。
	危機管理体制の充実	本校の危機管理マニュアルに基づいた活動を行う。	B	校内だけでなく、地域と連携した防災訓練等を実施している。本校は地域の避難場所として伊方町から指定されており、高齢者や障がいのある方に対する支援についても授業等で学んでいる。また防災の研究活動にも取り組んでいるが、それを実践に生かせるよう見直していく必要がある。	幸い、大規模災害等に直面することなく過ごせている。それが気の緩みにつながることをないよう、しっかりとしたシュミレーションを積み重ねていき、実際の場面での有効的な対策につなげていきたい。
学習指導	家庭学習の充実	高い目的意識と主体的な家庭学習習慣を身に付けさせ、平均家庭学習時間150分以上を達成する。	A	平常時の平均時間は158分であり、目標を達成することができた(考査時の平均は247分。昨年度は214分)。昨年度の平均時間が143分だったので15分上回った。公営塾との連携がより密なものとなり、定期考査に対する意識付けと動機付けがなされたことや、進路への意識や進路実現への意欲の高揚も目標達成の要因の一つであると考察される。	参考書やスタディ・サプリ等を用いて、平常時から継続的に学習する意識を向上させていきたい。また、家庭学習習慣が身に付いていない生徒に対しては学習方法から指導していく必要がある。公営塾との連携も一層図っていきたい。
	教科指導の充実	積極的に研修を行うことで教員の指導力向上を図り、生徒の授業評価ポイント4.0以上を目指す。	A	『Most Likely Succeed』上映会や、『Principleの見える化』研修会などを通して、指導力向上を図ることができた。また、全校生徒に対し授業評価アンケートを実施して、今年度も全ての教員が4.0以上をクリアできた。	引き続き、生徒からの評価をもとに授業内容を改善するとともに、ICT機器やスタディ・サプリを活用して分かりやすい授業を心掛けたい。さらに今後はアクティブラーニング的な要素を取り入れた教科指導の充実にも努めたい。
		漢検2級取得者5人、実用英検2級取得者2人、商業資格検定1級取得者6人(うち3種目以上1級取得者2人)を目指す。	B	漢検2級取得4人、英検2級取得3人、商業資格検定1級取得0人であった。目標は達成することができなかったが、昨年の実績を3項目中2つ向上させることができた。	検定の合格に向けて目標を立てて計画的に勉強したり、継続した勉強を続けていったりできるような力を身に付けさせたい。

生徒指導	生活指導の充実	身だしなみ指導を毎月1回実施し、毎回不合格者0人を目指す。	B	身だしなみの大きな崩れはないが、軽微な点で指導を受ける生徒がいる。	事前指導を充実させ、風紀委員会（生徒会活動）と連携を図りながら意識を高めた。
	交通安全指導の充実	毎月1回交通安全指導日を設け、通学路の交通指導を行う。ヘルメットの確実な着用を呼びかけ、自転車・原付通学バイク生の無事故・無違反を目指す。	B	自転車のヘルメット着用は良好で、事故はなかったが、バイク通学生の転倒事故があり目標到達には至っていない。	自転車通学生とバイク通学生については、個々に訴える指導と、あらゆる機会を捉え交通安全指導を徹底したい。
	奉仕の精神を養う教育の充実	地域に貢献する奉仕活動を1回、校内の環境美化意識を高める奉仕活動を2回実施する。	A	予定していた内容は充実して行えた。	日常生活の中で環境美化に対する心を育てていきたい。
	主体性を育てる教育の充実	各クラスにおいて、各種専門委員を1人2役経験させる。	A	各クラスの人数にばらつきがあるが、配慮をいただき責任をもって委員会活動が行えた。	1つの委員会だけではなく、他の委員会を経験させることで、視野を広げさせたい。
進路指導	キャリア教育の充実	社会人やキャリアコンサルタントによる講演会を年2回以上実施する。	B	講師の都合や学校行事の増加に伴い、講演会の実施が1回（八幡浜公共職業安定所）のみとなった。	講演会開催に加え、愛媛県内の企業と連携したキャリア形成の取組について進めていくことを考えている。
	多様な進路希望に応じた指導の充実	進路情報を学期に1回以上発信し、進路に対する意識の向上を図る。	B	進路意識については、進路ガイダンス、進路情報の掲示や配布、各授業、HR活動等を通して向上を図った。	進路実現に対する意識の向上が、まだ不十分であるため、日々の学習や進学関係行事について、その内容を検討する。
		進学、就職内定率100%を達成する。	B	多様な進路希望に対応できていない面がある。特に選択の決断が遅れる場合や実力と希望が乖離している場合である。	前年度の方法を踏襲しながら、より個々の生徒への対応を充実させたい。生徒自身が自ら考え、選択するような取組を行う。
人権教育	人権学習の充実	人権・同和教育ホームルーム活動の年3回実施や年1回以上の人権講演会を通して、人権意識の高揚を図る。	B	予定通り実施した。全国集会や人権研修会などに積極的に参加し、人権意識の高揚に努められた。	様々な交流を通じて、生徒一人一人の人権意識が高揚するよう促していきたい。
		人権だよりを年6回以上発行し、人権委員会を中心とした生徒主体の啓発活動を充実させる。	B	4回分作成した。生徒が中心となって作成しており、分かりやすい内容のものとなっている。	人権委員会実施後1週間以内を目処に、年6回以上発行していきたい。
	情報モラル教育の充実	授業や講演会などを通して携帯電話やインターネットの適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てる。	A	授業において、生徒に対して情報発信の方法やメディアとの関わりについて理解させた。	SHRやホームルーム活動、地域活動などの様々な方面から、情報モラルについての理解がさらに深められるように努力していきたい。
	異文化理解の充実	国際交流会等を通して異文化への関心を高め、異文化を尊重する態度を育てる。	A	授業内で海外の学校との交流をした。関心の高まりから、海外への短期研修者が報告会を行った。	来年度も授業内での交流を充実させ、短期留学を経験させ、校内での報告会を実施したい。
現職教育	研修の充実	校内研修を年5回実施するとともに、校外研修の活用や研修報告を通して、資質向上を図る。	A	校内研修や校外研修の報告会を16回実施した。	学校の実態やニーズに合わせた研修ができるように工夫していきたい。
		年5回以上の研究授業や公開授業時のアンケート・教員相互の授業参観等を通して、授業改善に役立てる。	B	研究授業を4回実施した。	教員相互の授業研修をより活発にし、横断的な授業に取り組めるように努めていきたい。

保健・安全管理	保健活動の充実	毎月1回、生徒の健康課題に沿った「保健だより」を発行する。また、生徒保健委員会活動を充実させ、健康に関する情報発信と意識向上に努める。	B	「保健だより」を毎月発行した。生徒保健委員会活動では、小中学校と連携した生活リズムアンケートの実施や掲示物の作成、校内放送等の啓発活動を行った。	生徒保健委員会の自主的運営や活動について、さらに充実した取組を考えていきたい。
		生徒に対し、専門家による健康に関する講話を開催する。	B	保健所による食品衛生講話と伊方町と連携した事業として、食育講座と認知症サポーター養成講座を実施した。	伊方町との連携事業については、世代毎の取組でもあり継続していく中で、高校生の課題をしっかりと意識させたい。
	衛生管理の徹底	毎月1回衛生委員会を開催する。	B	毎月衛生委員会を開催した。	衛生委員会で協議した内容を、迅速に教職員へ周知し、職場環境の改善に生かせるように努めたい。
		教職員に対し、教職員健康管理医による講話を年1回開催する。	B	7月に「慢性腎臓病について」教職員健康管理医が職員講話を実施した。	定期健康診断までの意識づけに有効であり、教職員健康管理医と連携し、今後も継続していきたい。
安全管理の徹底	毎学期1回安全点検を実施する。	B	学期に1回安全点検を実施し、施設設備の危険箇所等の把握と修繕等を行った。	施設の老朽化対策にも着目し、事務課と協議し早期の事後措置を徹底したい。	
図書活動	図書活動の充実	朝の読書の質の向上を目指すとともに、ブックトークなどを通じて読書に対する意識を向上させる。	B	伊方町立図書館から本の貸出を受けたり、学級文庫を置くことによって、朝読書以外の時間にも読書を行う生徒が増えてきた。	授業やホームルームの時間等も図書室を利用することで、日ごろから読書に親しめるようにしたい。
		図書委員会で「図書館だより」を年間3回以上発行し、図書館活動を生徒・保護者に啓発する。	B	現在、年間3回以上の「図書館だより」の発行はできていないが、図書室の使い方や図書委員会の紹介などを行った。	図書館の活動の様子が伝わるよう、工夫しながら「図書館だより」を継続的に発行していきたい。
		図書館来館者数延べ300人、年間一人あたりの貸出数3冊以上を目指す。	B	現在、調査したところ来館者数は217名、一人あたりの貸出数は2.44冊であった。昨年度より貸出数は増えたが、よく読書をする生徒とそうでない生徒の差はまだ大きい。	まずは図書館に立ち寄る生徒が増えるよう、環境整備から行っていきたい。
PTA活動	PTA活動の充実	ホームページや「PTA便り」を通して、旬な情報を伝え、学校行事への積極的参加を促す。	A	ホームページの更新頻度を上げ、内容を工夫した結果、1日の平均閲覧者数は400件になった。「PTA便り」の発行もできた。	ホームページ閲覧者数を、さらに増やしていけるよう、内容を工夫していきたい。
		PTA総会の出席率55%以上を目指す。	B	PTA総会の出席率は48.8%であり、目標には届かなかった。遠方の方にも多く参加していただけるよう呼びかけたい。	保護者が学校行事に関わる機会を増やしていけるよう、積極的に呼びかけていきたい。
事務	教育行政職員としての適切な業務の遂行	光熱水費・消耗品費の節約を啓発するとともに、計画的で効果的な予算執行をする。	B	教職員への節約意識の啓発に努めるとともに、計画的な予算執行や予算把握にも努め、効果的な予算執行を行うことができた。	更なる経費節減のため、教職員への意識啓発を図っていきたい。また、費用対効果を考慮し効果的な予算執行を継続していきたい。
		迅速かつ適正な事務処理をする。		迅速かつ適正な事務処理を行うことができた。	適正な事務処理ができるよう、研修の充実や確認体制の徹底を継続していきたい。
地域協働	地域と連携した取組	定期的な校内巡視により、不良箇所の早期発見・早期対応に努め、安全確保に努めるとともに施設の長寿命化を図る。屋外環境の保全と美化に努める。	A	不良箇所の早期対応により安全確保に努めることができた。また、樹木管理等、屋外環境の保全や、通学路の美化も積極的に取り組むことができた。	施設担当者による点検強化に努め、施設の老朽化対策も積極的に取り組むようにしたい。また、屋外環境の保全と美化は継続して取り組んでいきたい。
		地域行事への参加、年10回以上を目指す。		A	地域行事に14回参加し、積極的に活動することで地域と連携した活動を推進することができた。
地域協働	生徒の自主的な活動の充実	地域活性化に関するコンクール等へ積極的に応募する。	A	「えひめ地域づくりアワードユース2019」参加（審査員特別賞）、「EGFアワード」等のコンクールに積極的に応募した。	来年度は、各教科の授業と連携するなどして、さらに自主的かつ活発な活動を行わせたい。